



会期 平成30(2018)年

4月11日(水)～6月10日(日)

会期中無休

開館時間 9:00～17:00

※金曜日は20:00まで、入場は閉館の30分前まで

※4月11日(水)は10:00開場

料金

一般	1,400円	(1,200円)
高・大学生	900円	(700円)
小・中学生	600円	(400円)

**まもなく開幕！**

開会式情報、主要作品解説、特別メニューなど追加しました。



- JR広島駅より約1km ●広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぷる～ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)

## 【開会式情報】

次の通り、「ボストン美術館 パリジェンヌ展 時代を映す女性たち」の開会式を行います。

報道各位におかれましては、取材・広報にご協力いただきますようお願いいたします。

日時／平成30年4月11日(水) 午前9時30分～

場所／広島県立美術館 3階企画展示室入口 ロビー

内容／主催者紹介・挨拶、来賓紹介、県内入選者紹介、テーブルカット、内覧

## 【開催趣旨】

パリという魅力あふれる都市に生きる女性、パリジェンヌ。彼女たちは時代の変化とともに様々な表情を見せてきました。知的な会話を楽しむサロンの主宰者、子を慈しむ美しい母、流行を生み出すファッションista、画家のミューズ、そして自ら道を切り開き才能を開花させた画家や女優——本展覧会では、マネの《街の歌い手》をはじめ、ドガやルノワールなど印象派の巨匠が描いた女性の肖像、カサットやモリゾなど女性芸術家による傑作、カルダンやバレンシアガの斬新なドレスからブリジット・バルドーほか映画や舞台で活躍した女優のポートレートまで、ボストン美術館の所蔵品約120点を通して、18世紀から20世紀のパリを体現してきた女性たちの姿に迫ります。

## 【展覧会の構成】

### 1章 パリという舞台——邸宅と劇場にみる18世紀のエレガンス

1715年にルイ14世の治世が終わると、宮廷のあるヴェルサイユに代わり、パリが文化の中心地となっていきます。個人の邸宅(オテル)では、しばしば女主人が文化人の集いを主宰しました。サロンと呼ばれるその集いで、彼女たちは招待客を選び、ウィットに富んだ会話を取りしきり、部屋の内装や自分の身なりも洗練させていきます。女主人の個性を反映したサロンは、人々の交流や新しい考え方を広める場となりました。舞踊の世界も中心地をパリへ移し、女性の活躍する機会が広がります。舞台上で使われたドレスや工夫を凝らした髪型は、定期刊行物を通じて流行していきました。



《ドレス(3つのパーツからなる)》1770年頃  
The Elizabeth Day McCormick Collection 43.1643a-c

### 2章 日々の生活——家庭と仕事、女性の役割

18世紀末のフランス革命の勃発とその後のナポレオンの統治下で、社会は大きく変化しました。フェミニズムの運動が起こる中で、小説家や批評家として活躍する女性も現れます。しかし、結婚して母となり家庭を守るという伝統的な価値観はまだまだ根強く、その道を選択しないパリジェンヌには、つらい、笑ってやり過ごすしかない状況もありました。美術においては、労働者階級や中産階級の日常生活を描いた風俗画が多く制作されるようになります。パリの女性の日々は芸術家の想像力をかきたて、優しい母親、美しい労働者、未亡人、権利を主張する女性などさまざまな姿が描かれました。



ルイ=レオポルド・ボワイエ《アイロンをかける若い女性》1800年頃  
Charles H. Bayley Picture and Painting Fund 1983.10

### 3章 「パリジェンヌ」の確立——憧れのスタイル

1852年、ナポレオン3世が皇帝に即位し第二帝政が始まります。この時代、パリの街は大改造が行われ、街路は広がり、近代化が進みました。街では人々がウィンドウショッピングを楽しみ、広告や雑誌はさまざまな商品を取り上げ、消費が拡大していきます。パリではファッション産業が重要な位置を占め、働き手として女性が活躍しました。購買者としても女性は最新流行の衣服を求め、ショール、バッグ、靴といった装身具で完璧な装いを披露しました。パリジェンヌについて論じた本も出版され、そのスタイルは憧れの対象となります。パリの流行は、海を越えてアメリカにまで伝わっていきました。

### 4章 芸術をとりまく環境——制作者、モデル、ミューズ

伝統的な美術教育機関であったアカデミーの門戸は、女性には長らく閉ざされていました。しかし19世紀を通してその権威が衰えるにしたがい、印象派やソシエテ・デ・パントウル＝グラヴール(画家・版画家協会)など新しい勢力が台頭し、美術界は大きな変化を遂げます。こうした新しい主題、様式、展示の場が生まれる中で、女性は制作者であると同時にモデル、そして芸術家の想像力をかきたてるミューズとなっていきました。彼女たちは、新たな技術向上の機会、共同制作、作品発表の場所を得るようになったのです。



ビエール＝オーギュスト・ルノワール《アルジェリアの娘》1881年  
Juliana Cheney Edwards Collection 39.677



ビエール・カルダン《ドレス》1965年頃  
Joyce Arnold Rusoff Fund 1998.436

### 5章 モダン・シーン——舞台、街角、スタジオ

1900年の万国博覧会で20世紀の幕を開けたパリでは、ミュージックホールやキャバレーが次々に開店し、多くの人で賑わいます。女性はこうした盛り場の舞台上、歌手や踊り子として活躍しました。仕事やスポーツにいそむ女性も増え、活動的になった女性の姿が作品に見られます。社会的な役割や階級、そして性別の枠を取り払い自らを表現するパリジェンヌは、芸術のアイコンであり続けました。ふたつの大戦を経たパリの街は再び活気を取り戻し、若者たちが政治からポップカルチャーやファッションまで、次代をけん引する存在となっています。



## 【主要作品解説】

### フランツ・クサーヴァー・ヴィンター・ハルター《ヴィンチェスラヴァ・パーチェスカ、ユニヤヴィッチ夫人》1860年

Museum purchase with funds bequeathed by Genevieve Gray Young  
in memory of Patience Young and Patience Gray Young 1998.396

19世紀半ばのパリ社交界では、ナポレオン3世の妃であるウジェニー皇妃のファッションが模範とされました。ポーランド貴族であるユニヤヴィッチ夫人も皇妃に倣い、黒いレースを肩に掛け、皇妃お気に入りの画家ヴィンター・ハルターに肖像画を依頼。高価なサテンのドレスとレースの飾り帯は、細部にまで画家の注意が払われています。衣装の優雅さに反し、束ねられていない彼女の髪は、本作が私的な空間に掛けられた肖像画であることを示しています。



## 【主要作品解説】

ジョン・シンガー・サージेंट《チャールズ・E. インチズ夫人  
(ルイーズ・ポメロイ)》1887年

Anonymous gift in memory of Mrs. Charles Inches' daughter, Louise  
Brimmer Inches Seton 1991.926

本作で描かれているのは、ボストンの社交界で名を馳せたルイーズ・インチズ。フランスを代表するデザイナーであったフレデリック・ウォルトの意匠に倣ったイブニングドレスで身を飾り、控えめでありながら誇り高さを感じさせる眼差しを向けています。モデルとなったのは20代半ば。このとき、3人目の子供を懐妊していました。体を傾けたポーズや、細かな描写を避けた背景の処理など、18世紀のフランス社交界の肖像画を思い起こさせる表現がなされています。



## エドゥアール・マネ《街の歌い手》1862年頃

Bequest of Sarah Choate Sears in memory of her husband,  
Joshua Montgomery Sears 66.304

酒場を渡り歩く、街の歌い手。左手には仕事道具のギターとさくらんぼの包みを抱えています。ふと、酒場から出てきた歌い手の姿にマネは惹かれ、絵のモデルになってもらうよう声をかけます。しかし、笑って取り合ってもらえず、結局は長年にわたってマネ作品のモデルを務めたヴィクトリーヌ・ムーランが代わりにモデルを務めました。マネの代表作である《草上の昼食》や《オランピア》は画壇にスキャンダルを巻き起こしましたが、これら作品のモデルも彼女が務めています。



## エドガー・ドガ《美術館にて》1879-90年頃

Gift of Mr. and Mrs. John McAndrew 69.49

印象派の画家ドガは、パリに暮らす人々の様相をしばしばカンヴァスに切り取りました。本作では、ルーヴル美術館と思しき場所で作品を眺める女性の姿が描かれています。この二人の女性は、印象派の画家メアリー・カサットとその姉リディアと見られています。ドガの求めに応じ、彼女らはたびたびモデルとなり、上流階級の人物に相応しい立ち振る舞いを示したのです。本作では、特定の人物の肖像としてではなく、ときに美術館で見られる光景の一つとして描写されています。



## 【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像をご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。

## 【関連イベント】

### 1. 記念講演会「劇場の女性たち－印象派絵画を中心に」(共催:広島県立美術館友の会)

日時: 4月21日(土)13:30～15:00(開場13:00)

講師: 喜多崎 親(成城大学教授)

### 2. 美術講座「パリジェンヌ展補遺:狂乱の時代－20年代のパリ」

日時: 5月27日(日)13:30～15:00(開場13:00)

講師: 山下 寿水(当館学芸員)

1、2はすべて 会場: 地階講堂

※申込不要、聴講無料、定員200名(先着順)

### 3. ギャラリートーク

日時: 4月20日、27日、5月11日、18日 各金曜日 11:00～、18:00～

講師: 山下 寿水(当館学芸員) 会場: 3階企画展示室

※申込不要、要入館券 ※会場入口にお越しください。

### 4. ウェブレポーター大募集

日時: 4月13日(金)17:00～19:30

受付場所: 3階ロビー 実施場所: 3階企画展示室内

対象: ホームページ、ブログ、ツイッター、フェイスブックなどのSNSにて情報発信をされている一般の方

※申込不要 ※実施当日に限って本展にご招待します。

### 5. 写真撮影コーナー「あなたもパリジェンヌ」

日時: 4月11日(水)～6月10日(日) 開館時間内

※石田あさきトータルファッション専門学校による、マネ《街の歌い手》を模した衣装を着用して、写真を撮影できます。カメラをご持参ください。

### 6. パリジェンヌ気分でヘアメイク体験

日時: 5月19日(土) 13:00～15:00

5、6はすべて 会場: 3階ロビー ※申込不要、参加費無料

### 7. ロビーコンサート

#### 「パリの空の下で」

日時: 5月12日(土)12:00

演奏者: 野口美紀(アコーディオン)

会場: 1階ロビー ※申込不要、鑑賞無料

## 【県美×現美×ひろ美 相互割引】

「ボストン美術館 パリジェンヌ展 時代を映す女性たち」の会期中、3館で相互割引を実施！下記いずれかの特別展チケット(半券可)を受付にご提示いただくと、本展当日料金より100円割引。詳しくは各館にお問い合わせください。※1枚につき1名様限り、他の割引との併用はできません。

広島市現代美術館 (南区比治山公園1-1/TEL 082-264-1121)

阿部展也—あくなき越境者 2018年3月23日(金)～2018年5月20日(日)

ひろしま美術館 (中区基町3-2[中央公園内]/TEL 082-223-2530)

ねこがいっぱい ねこアート展 2018年4月21日(土)～2018年6月24日(日)



## 【特別メニュー】

### 1階 Zona ITALIA in Centro(ゾーナ イタリア イン・チェントロ)

レストランでは、パリジェンヌ展の特別メニュー3品をご用意しました。ランチセットの前菜3種盛りの1品として提供する「タブレ」とは世界一小さなパスタで、クスクスを使ったサラダ感覚で食べられている料理。クスクスはフランスでは一般的によく食べられている食材で、今回のタブレはパールブッフアラ(小さな水牛のモッツアレッタチーズ)を使用しています。トマトの鮮やかな赤が印象的な「タブレと佐木島トマトのリピエーノ」は瀬戸内海に浮かぶ島、佐木島で採れたトマトを丸ごと1個使用し、タブレを詰めました。こちらは、ディナーコースの一皿として提供します。「フランスアジャン産プルーンのクラフティ」はフランスのリムーザン地方の伝統菓子。果物入りカスタードプディングのようで、今回はフランスのアジャン産のミネラルビタミンがバランスよく含まれたプルーンを使用しています。味も見た目も、おしゃれでかわいいメニューをぜひ、お楽しみください。



上=タブレ  
中=タブレと佐木島トマトのリピエーノ  
下=フランスアジャン産プルーンのクラフティ

### 3階 ティールーム 徒夢創家(トムソーヤ)

ティールームでは、パリのカフェでも人気のミルフィーユを苺アイスにしました。冷たいミルフィーユをお好きなケーキやドリンクと一緒に召し上がりがいただけます。プラス200円でティールームすべてのメニューにセットとしてご利用いただけますが、さらにお得な情報として、ケーキセットとドリンクをお選びの場合、特別展入場者様には、100円割引チケットを配布しておりますので、その特典をお使いいただければ、なんと実質プラス100円でご利用可能に！パリジェンヌ展をご観覧の際は、ぜひ、特別メニューをお試しください。



パリジェンヌも気になる  
「アイスで楽しむミルフィーユ」セット

## 【縮景園連携】

ワンコイン縮景園 本展入館券のご提示により、100円で縮景園にご入園いただけます。

## 【開催概要】

メインタイトル：ポストン美術館 パリジェンヌ展 時代を映す女性たち

英語名：La Parisienne: Portraying Women in the Capital of Culture, 1715-1965 from the Museum of Fine Arts, Boston

料金：一般 1,400(1,200)円 高・大学生900(700)円 高・大学生600(400)円

※( )内は前売り・20名以上の団体料金

※学生券をご購入・ご入場の際は学生証のご提示をお願いします。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)の当日料金は半額です。

前売券販売所：広島県立美術館、セブンイレブン(セブンチケット)、ローソン(Lコード 62232)、チケットぴあ(Pコード 768-831)広島市・呉市内の主なプレイガイド、画材店・画廊、ゆめタウン広島などで販売しています。

### 開催クレジット

主催：広島県立美術館／ポストン美術館／広島ホームテレビ／イズミテクノ／中国新聞社

後援：アメリカ大使館、中国放送、広島テレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz  
エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMIはつかいち76.1MHz、FM東広島89.7MHz

企画協力：NHKプロモーション

協力：日本航空、日本貨物航空、広島県理容美容専門学校

協賛：大日本印刷、広島県信用組合

問い合わせ先：広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail m-kaminishis4677@pref.hiroshima.lg.jp (上西宛)または、  
iroeuma2@gmail.com

担当：学芸課 山下 寿水

広報担当：総務課 上西 真由美 一色 直香